

渡邊 義昭

淑徳大学社会福祉実習教育センター 実習指導助手

施設生活高齢者の安全確保に向けた介護・看護専門職の連携と協働

本研究は施設生活高齢者の安全な生活確保に向け、高齢者施設における4ヵ年分の「ヒヤリ・はっと報告書」を介護と看護専門職間の伝達・対応経過時間と発生状況から計量的に分析し、施設生活高齢者への「サービスの質の向上」と「利用者満足度の向上」を目指し安全・安心を提供するための基礎研究である。今回、埼玉県下の、A特別養護老人ホームの全面的な協力により過去4ヵ年分596件の「ヒヤリ・はっと報告書」を分析できる機会を得ることができた。この報告書では、従来の発生時間、場所、職員の位置、原因、内容などの分析だけでなく、「ヒヤリ・はっと」の発生時間と伝達対応経過時間に関する項目がありこれまでの先行研究では得られなかった介護・看護専門職の連携について時間経過という指標から新しい所見を得ることができるものとする。

「ヒヤリ・はっと報告書」の分析手法として介護・看護専門職間の連携と協働のシステムを「時間」という因子に注目することによって専門職間の連携の強さや関係性についてもデータ化を試みた。

以上のように、本研究のテーマである「施設生活高齢者の安全確保に向けた介護・看護専門職の連携と協働」は、これまでのように介護職員と看護職員間の連携だけを求めるのではなく、利用者へのサービスにおける事故防止といった視点を持つことによってより明確になると考えられる。